

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を基に実践を行ってきたが、昨年春には法人理念の見直しも行われ、全体会議等の場で職員は理念を共有し、示す言葉の意味を考えながら、実践へ努めている。	昨年春には法人理念の見直しがあり全体会議等で職員は理念の共有が出来ている。ホーム自体の理念は変わっていない。ホームのミーティングなどで法人、ホームの理念の共有はできている。職員会議で理念の理解を深めケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	系列施設との合同祭(秋)を開催し、地域の方をお招きする他、夏祭りや芋掘り・ふれあいフェスタ等の地域行事機会は基より、日頃から積極的な挨拶を心掛けている。地域の方から作物を頂戴することもあり、つながりを感じられる場面であった。	併設に立つ系列の老人保健施設等と合同の秋祭りを開催し、地域の方の参加もあった。自治会行事へ参加しており、村の秋祭り、ふれあいフェスタに出かけたり、公民館祭のお手伝いをした。ホーム周辺に民家が少ないが、散歩途中で畑仕事の方と挨拶が出来ることもある。このことで繋がりができ作物を頂くようになった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事に参加させて頂く際には、まずホームについて知って頂けるよう言葉かけや認知症ケアの資料配布などを行った。ご来所の方へは随時相談援助を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に開催し、ご利用者様・ご家族様の代表・自治会長様・村役場福祉保健課担当者様を交え、近況報告ならびに意見交換を行い、得られた提案事項等を基にサービス向上へ活かしている。	偶数月に開催となっている。日吉津村福祉保健課、今吉地区自治会長、利用者代表、家族代表の参加がある。利用者状況説明、行事報告、ヒヤリハット、事故報告などが話し合われている。災害対策は地区自治会長と連携について、停電時の対応など話し合われた。会議で話し合われたことをサービスに活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ご利用状況等をお伝えすることで、市町村担当者さんを介し利用相談を承っている他、諸用にて訪問される担当者さんとの意見交換を行っている。一部、ご利用者様の入所・入退院時にも協力が得られた。	運営推進会議に参加頂いている。利用者状況を報告するなどすることから、村の担当者と相談意見交換があり連携が取れている。生活保護の方の入所、入退院時協力を得ておられる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に職員会議を開き、その中で身体拘束防止についても全職員の理解を目的に勉強を重ねており、拘束をしないケアの実践へ取り組んでいる。	定期的な職員会議の中で、身体拘束防止についても話し合われている。スピーチロックも含め検討されている。職員の方々は、理解しケアに取り組んでおられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「身体拘束をしないケア」同様に、委員会活動を通じ、職員間で虐待防止について啓発と共有を図っている。介護主任・サブリーダーもユニット内において日頃より注意を払い、発生防止へ努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者と職員何名かは外部研修において権利擁護について学ぶ機会を持つことができた。現在、ご利用者様の中で、成年後見制度を活用しておられる方もおられ、関係機関より相談を受ける事例もあった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や改定時には、書面交付とご説明のうえ、不明な点や疑問に感じられる点など無いか確認を取りながら、ご理解頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見をお寄せ頂ける旨を口頭ならびに玄関への書面掲示等にて周知している他、定期的にご利用者様・ご家族様へ、匿名でのアンケート協力を依頼し、承った意見を反映できるよう努めている。	年1回ホームで職員の対応、説明、雰囲気、ご利用者様の表情などについてアンケートを行い意見を反映できるようにしている。介護計画の評価時に利用者、家族から意見、要望を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝夕のミーティングやユニット会議他随時、管理者は職員の意見や提案を受け付け、多くの意見が寄せられており検討のうえ反映させている。法人幹部職員も会議参加機会を設けている。	管理者は朝夕のミーティングやユニット会議で意見や要望を聞き検討しケアに反映している。個別面談はないがいつでも職員から意見、要望を聞きいれている。法人幹部も全体会議に参加し管理者は意見要望が言いやすい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人幹部職員は適宜、職員個々の勤務状況等把握を行っており、(職員の)健康状態・家庭状況等に配慮した勤務調整他、職員同士の親睦機会を設けるなど、職場環境の整備へ努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修機会につき勤務調整を行い、希望にも応じて参加できるように、又参加者は共有を図るべく伝達を行っている。内部では法人単位での勉強会も開かれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会主催の相互研修へ参加できることがネットワーク構築に役立っている。圏域内のグループホームとも適宜連絡を取り合っているが、今後もサービス向上のため、交流を図っていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご契約頂く前に、ご挨拶と初回アセスメントを兼ねて訪問させて頂き、ご本人様の意向など確認しながら関係構築に努めている。なるべく入居前にご本人様にもホーム見学を行って頂き、感想などを尋ねている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム見学・概要説明時、ご入居申込時・訪問調査時など、その都度ご家族様と意見交換を行いながら、関係づくりへ努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	特に初回面談時において、ご意向など伺いする中で、当ホームにおける支援のみならず、他サービスによる支援も効果的と考えられる際には助言等行い、実際に検討される方もおられます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様と対等の立場で接することを、職員勉強会等で意識化を図りながら心掛けている。家事等を一緒に行うことのみならず、気持ちの面でも互いに支えあえる関係であるよう目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様へは毎月、近況報告書にてご様子ならび連絡事項等をお知らせしており、ご面会の際には、ご本人または職員を交えて話をしたり、受診等でもご協力いただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	具体的事例としてご自宅やお墓参り、出身地などへ外出支援を行ったほか、電話や手紙も用いながら、馴染みの関係を大切にさせて頂けるよう支援している。	車椅子使用の方や南部町の方が多いので馴染みの場所に出かけ難い面もあるが、墓参りや外食など家族と共に出かけられる方もある。電話で家族と話される方がありいつでも対応している。自宅付近などにドライブにグループでかけている。	馴染みの場所に出かけることが少ないので利用者ごとに応じて職員の支援を受け手紙を書いてもらい家族、兄弟、親戚の方などに郵送し返事を頂きな地物関係を思い出して頂く支援も良いかも知れません。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様おひとりお一人の性格や、状態などを考慮しながら、席の配置を決めたり、職員がご利用者様同士の仲介へ入り、コミュニケーションをとりやすいよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居・入院先へ職員のみならずご利用者様と面会へ出掛けたり、同先の職員さんとも必要に応じて連絡を取り合い、相談支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者が、食べたい物・行きたい所など色々尋ね、なるべくご本人様の希望に沿って、個別支援へ努めている。意思表出が困難な方へも日頃の関わりから推測し、検討を行っている。	担当者が会話の中から行きたい場所、思いや意向を聞きだしている。困難な方には表情、関わりの中から汲み取っている。家族の面会の時、昔の生活や趣味など聞いて把握に努めておられる。	利用者が自分から行きたい場所、食べたいもの、趣味などがレクリエーションを通して、自然に引き出すような工夫を取り入れられても良いかも知れません。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前に、ご本人様ご家族様・サービス利用先から差支えない範囲でお伺いしている他、入居後においても普段の関わりやカンファレンス等を通じて、生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様ごとの介護記録をはじめ、アセスメントシート・介護計画書に記しながら、状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様とご家族様のご意向をふまえ、計画作成担当者ご利用者担当職員が主に携わりサービス計画書を立案し、カンファレンスにおいて意見交換を行ったのちに本計画書を発行している。	利用者、家族の意向、思いを担当者、介護計画作成者が話し合い介護計画を作成されている。変化があったときは介護計画の変更も行っておられる。モニタリング月1回、評価については変化(変更)がある場合を除き、6ヶ月に1回行われていた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当ホームは入所と短期入所ならび通所介護サービスの提供を行っている他、日々のサービス提供にあたって必要に応じて外出支援や、行政機関との連絡、他事業所との連携等へ努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や地域行事への参加等を通じて結びつきを深めながら地域資源を見出し、ご利用者様へのサービス展開へ活かせるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には当ホームの母体となる医院との医療連携支援を提供しているが、ご本人様のご要望にて独自のかかりつけ医を受診されている方もおられ、ご家族様の協力を得ながら医療機関との連携を図っている。	ホームの母体が協力医でもあり、入所時にかかりつけ医とされる利用者も多い。往診は2週間に1回、精神科も月1回となっている。利用者、家族の希望で入所前のかかりつけ医を受診される方もある。医師、看護師、家族、管理者は連携をとり適切な医療が支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は毎日、ホームの看護職員と母体医院からの訪問看護職員へご利用者様の状態を伝えるとともに、都度指示助言を受けながら協働で支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には、面会の際に近況を尋ねているほか、医療連携室の担当者さんと電話・面談にて診療状況を確認し、当ホーム母体医院とも連絡調整を図りながら、退院後の支援体制を整え早期退院へつなげるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの事例は未だ無いが、終末期ケアの実施にあたっては看護職員が主となり、職員間で具体的な支援方法を検討・確認しながら、一方でご本人様ご家族様と適宜話し合い、医療機関とも連絡を取りながら支援を行った。	入所時に重度化や終末期に向けた方針の説明をされており、方針の文章化もある。看取りの事例は未だ無いが、看取りのケアの実施は可能である。看取りのケアの支援方法は看護師が主となり支援方法を検討し、医療機関、家族と話し合いながら職員はチームで支援に取り組まれる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に(法人単位で)救急講習を受講しているほか、看護職員が主となり、ご利用者様ごとに考えられるリスク等が挙げられており、ミーティングの場で確認を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、系列施設と合同で火災避難訓練を実施しており、村が主催する総合防災訓練へも毎年参加している。災害対策について運営推進会議でも議題となっており、情報の共有を図っている。	年2回、併設施設と合同で火災避難訓練を実施している。夜間想定訓練も実施されている。救急蘇生、AEDの使用方も併設施設と一緒に講習を受けている。村が主催する総合防災訓練に毎年参加している。災害対策について運営推進会議で地区自治会長と情報の連携をとり協力体制を図っている。備蓄・水、食料は併設施設と共有され、ストーブ、灯油の備えもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重とプライバシーの保護を心掛け対応に努めている。職員間の会議においても具体的事例など議題に挙がっており、接遇につき確認と意識化を図っている。	法人、ホームで人格の尊重とプライバシーの保護の接遇研修に参加されたり、職員会議で話し合い、意識を高めておられる。入浴は希望によりなるべく同性介助が行われている。日常的に、丁寧な声かけ、対応が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を伝えられる方はもちろん、意思表示が困難な方へは、日常の関わりから思いや希望の把握に努めている。もしかして更衣する服を選んでいただく事も可能では？など検討し働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはおおまかにある中でも、その時の状況や、ご利用者様の意向・希望に沿って、ご案内等支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣類を、なるべく自己選択していただき、持参もお願いしている。日々の洗顔・お手入れ・髭剃りは基より、理容の外部委託・ケースによっては衣類の買い揃えへも応じている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	2週間に一度、順番にお好みメニューの日を設けてご本人様に伺い提供している。又、ご協力いただける方とは調理準備や片付けをご一緒に行っている。外食機会も設けている。	たんぼぼ棟では介助の方が4人おられ見守りと介助が中心だった。このため食事を一緒に食べることが出来ない。献立の説明、時季の会話で雰囲気作りをされていた。近隣のお店へ出掛け外食を楽しむ機会を設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人に勤める管理栄養士作成の献立を基に調理し提供。食事・水分摂取量の確認を基に不足されないよう留意し、看護職員とも連携を図り、食事形態も個別に検討と支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人様の状態に応じて、言葉かけ～全面支援にて口腔ケアを行っている。口腔内変化が見受けられる際には、ご家族様・歯科医・法人内衛生士等と連携を図りながら支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自らトイレへ向かわれる方・尿意を示される方へは見守り又は介助を行い、ご自分では困難な方へは排泄確認表を基に間隔をみて案内を行っている。日中はベッド上での交換無く、トイレ案内を行っている。	行動や様子を見ながらトイレ誘導を行っている。困難な方へは排泄確認表を基に間隔を把握しトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を兼ねて牛乳や乳酸菌飲料をお勧めしている。排泄記録表を基に便秘時には看護職員へ相談し都度対応。トイレ・入浴時における腹部マッサージ、体操等運動機会も設けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2~3回は入浴して頂けるようご案内している。体調不良や入浴を辞退された際には、他ご利用者様への案内等により調整をした上で、翌日以降に再び入浴案内を行うなど調整している。	週に2~3回は入浴を行っている。体調不良、拒否の方は調整やタイミングを図り入浴されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自分のペースをお持ちで休まれる方へはもちろん、移動支援を要する方へも適宜言葉かけ確認と休息案内を行っている。就寝時は居室の温度・湿度や寝具調整に気を配り安眠へつなげるよう留意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期処方薬ならび追加処方薬について、一人ひとりのお薬説明書を確認しながら看護職員と協働し、準備と服薬支援を行っている。症状の変化等についても留意し、医師・看護職員と確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様個々に可能な範囲で役割をお願いしているほか、季節ごとの行事により得意事も活かして頂きながら、また気分転換ともなるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日曜日は入浴をお休みとさせて頂き、外出支援機会を多く持てるようにしている。集団での外出・個別の支援も行っており、ご家族様の協力により定期的に外出外食される方もおられる。	日曜日は入浴を休みとされ外出支援の日とされている。希望の場所など聞きドライブに出かけている。ホーム周辺の散歩も普段出かけにくい方も出かけられるよう支援している。家族と外出され外食を楽しまれる方もおられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務窓口で管理代行をさせていただき、日用品の購入や外出時における飲食費などを、預かり金の中からお支払している。移動販売を利用される方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも掛けられるようホールに設置しており、ご家族様との連絡を希望される方も数名おられ、ダイヤル操作等支援している。手紙も同様希望に応じて補足代筆等支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールに季節の花を飾り、折り紙を用いた装飾など、空間づくりへ努めている。室内温度と室温へ留意し居間においても場所により光や体感温度差が大きいため、確認を取りながら適宜調整している。	玄関やホールに季節の花が活けてあり、春を感じられた。たんぼぼ棟はお雛様が飾られ風情があった。玄関には職員の写真が掲示してあり名前と顔が分かりやすい。温度管理もしっかり行なわれていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様の入退居や状態変化に応じて、テーブルや椅子の配置を検討し気の合う方同士で過ごせられるように都度工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある物品をご持参頂けるよう依頼をしている他、家具などの配置についてもご本人様の状態に応じて、使い易いよう検討を行っている。	自宅で使っていた筆筒、ソファ、写真があり馴染みのものが持ち込まれていた。仏壇を持ち込まれておられ利用者の気持ちが組み取られていると感じた	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内に洗面所があり、トイレは居室を出てすぐのところにある。入浴場にはのれんが掛けられているほか、ホールから居室への通路や玄関が見えやすいため出入りしやすくなっている。		